えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り　No.6
令和５年６月１２日
文責：校長 福島

落とし物のつぶやき

写真はイメージであり、実際の落とし物ではありません。

私は毎朝子供たちを校門で迎える前に、校庭と学校の回りのゴミ拾いをするのが日課です。外の空気を吸ってゴミが無くなると心がリセットされ、気持ちよく１日を始められます。

ゴミも落ちていますが、洋服や帽子、ボールも１日１つは拾います。いわゆる「落とし物」です。名前を確認して届けるようにしていますが、無記名のものが多いです。

昔から学校には落とし物がありました。何かに夢中になると他のことを忘れてしまうのが子供です。それぐらい遊びに夢中になってほしいと思っています。しかし、落とし物の質が変わってきたように感じています。上着や帽子を着けていたことを忘れることはあるかもしれませんが、ボールの落とし物がかなりあるのはちょっと気がかりです。おそらく個人のものであろうと思われるボールが転がっているのです。落とし物置き場にも、ボールが並んでいます。

これだけ物も情報もあふれている時代に、昔と同じことを求めるのは無理があります。物を大切にすることがとても難しい時代です。しかし、物を大切にする価値観は必要で、人を大切にすることにつながります。

誕生日やクリスマスにプレゼントとしてほしいものが手に入ることがあります。「サンタさんに手紙を書いた」という話も毎年のように子供から聞きます。ほしいものが手に入るとき、人は「わくわく」します。それは非日常がそこにあるからです。「わくわく感の醸成」のためには、「スペシャル」をどうつくっていくかがとても大切です。物が「スペシャル」になるためには、与えすぎないことや、金銭面や人の思い等、物に内包される価値を丁寧に伝えていくことが大切です。

若いころ私はラグビーをやっていました。先輩から「ラグビーボールを抱いて寝るとボールの扱いが上手になる。」と言われ、ラグビーボールを買って抱いて寝ていました。上手になったかどうかはわかりませんが、今でも楕円球のボールの感触とラグビーを愛する気持ちはしっかりと残っています。